

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	スーパー（役員）	単価の動き	・前年下期は、基礎商品の値上げなどから、客単価の低下や買上点数の減少がみられたが、1月に入ってから、客単価の上昇、買上点数の増加がみられる。客単価の前年比は12月と比較して3ポイントの上昇となっている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・バーゲン月ということで期待したものの、スタートが少し盛り上がった程度であり、客の購買意欲が月を通して続かなかった。値踏みをしている様子もうかがえ、売上は非常に厳しい状態にある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・売上は何とか前年をクリアした。食品催事を前倒して開催したことが要因であり、この分を差し引くとマイナスとなっている。買上客数も減少しており、相変わらず厳しい状況にある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・引き続きタスポの恩恵を受けている。冬場に入り、周辺住民が近くの店舗で最寄品を購入する傾向がみられるようになっており、周辺に住宅の多い店舗ほど、安定した売上が確保できている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・依然としてタスポ効果で来客数が増加しているものの、客単価は前年と比較して2%低下しており、来客数の増加割合ほど、売上金額は増加していない。10月以降、低単価商品の増加が顕著であり、こうした傾向は変わらない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・ガソリン価格が落ち着いてきたことにより、販売量が戻ってきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話注文数が減少している。	
	やや悪く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・大型店を中心に初売りやクリアランスなどのセールを行っているが、盛り上がりが見られず、3か月前と比べて販売量が減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・昨年9月頃より売上の減少傾向が続いている。新年に入っても、特売やバーゲンにおける季節商材の動きが低調である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の買い方が非常に細くなってきている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・地元の大きなイベントの1つである氷まつり及び関連イベントが開催され、土日祝日には、年末商戦期間と同じくらいの来街者がみられるが、販売量の増加には結び付いていない。販売量は減少しており、特に冬物衣料が低迷している。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・購買に対する客の意識が厳しさを増している。セール時のまとめ買いや衝動買いは影を潜め、本当に欲しいものだけを時間をかけながら吟味して買っている。価格にも敏感になっており、前年に売れた価格帯でも高いと感じて、商品を手取る機会さえも減っている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・世界不況の影響下、かなりの落ち込みを予想していたが、想定内で収まりそうで一安心している。円高還元セールが順調で、客も買物のチャンスとみると、財布を開くようである。ただし、円高還元セールの対象外の商品は予想どおり厳しい状況にある。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・ホームページのチラシ情報へのアクセス件数が、前年の同時期と比較して倍増している。特に、午前中にアクセスする割合が高いことから、消費者があらかじめ価格を吟味したうえで買物に出掛けている様子がうかがえる。
コンビニ（エリア担当）		来客数の動き	・製造業の減産が相次いでいることから、大規模工場付近の店舗では明らかに来客数が減少している。	
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今年は例年よりも暖かく、雨の降る日が多かったことから、客足が遠のいており、景気が悪い。		
家電量販店（店長）	単価の動き	・来客数はそれほど変わらないが、高額商品の販売量が減少している。		

	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・景気の先行き不安のため、支出を抑えようとする客が多く、新車販売につながらない。販売量は、前年の60～70%まで落ち込んでいる。
	その他専門店 [医薬品](経営者)	お客様の様子	・日々、客から笑顔が消えていっている。それに連動して客単価も低下している。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・道外からの団体客がやや減少している。海外客も伸び悩んでおり、道内客は湯治客を中心に減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・例年であれば、1月は新年会などでタクシーの利用も多いはずだが、宴会を取りやめたり、縮小したりしている企業が多いようであり、3か月前と比べて売上が減少している。
	観光名所(職員)	来客数の動き	・世界的不況の影響が徐々に出てきている。韓国など、東南アジアからの観光客が減少しており、また、国内観光客も減少し始めている。来客数は、前年から86.2%の減少となり、3か月前との比較でも66.6%の減少となっている。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・技術売上が前年から10%程度のマイナスにとどまっているものの、商品販売の売上が30%のマイナスとなっている。節約のため、シャンプー等を量販店で購入する客が多くなっている。
	その他サービスの動向を把握できる者	来客数の動き	・景気の後退から、来客数は3か月連続で前年を下回っており、減少幅も拡大している。
	設計事務所(職員)	それ以外	・金融不安の影響で、数少ない民間建築予定工事の計画見直しや着工延期が相次いでいる。公共工事も、その多くが予定価格を20%近く下回る最低制限価格で落札されている。
悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・来客数、販売量共に、前年から1～2割の減少となっている。単価も1～2割の低下となっている。
	一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・メディアが極端にあり立てていることから、消費者のマインドが低下している。
	一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・販売先である飲食店等は最も景気に左右されやすい業種であり、昨今の不況感のまん延により、客の来店頻度が低下している。
	百貨店(売場主任)	単価の動き	・来客数は前年並みをキープしているが、買上単価が大幅に低下している。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・客の買い方に変化がみられる。単価の低下や商品の買い回りなど慎重な動きがみられる。2度、3度と来店して、買う商品を決めている様子もうかがえる。
	スーパー(店長)	単価の動き	・高額商品の動きが極端に悪い。節約志向の高まりにより、寿司などの購入単価が低下している。高級ワインも、前年に20本以上売れたものが、今年は2本しか売れなかった。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・客の買上点数の動きをみると、今月はほぼ毎日、前年を下回って推移している。
	スーパー(役員)	競争相手の様子	・当社は売上、来客数共に前年を上回っているが、仕入先からの話によると、競合他社はすべて納入量が減少しており、地域全体としては悪くなっている。
	家電量販店(経営者)	販売量の動き	・製品が壊れたため買換えを行うなど、受動的な理由での購入が多い。製品が壊れたなどの理由がない場合の購入は極めて少なく、商品を勧めても反応が悪い。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・売上、来客数共に、前年を大幅に下回っている。商談もなかなか決まらない状況にある。
	家電量販店(地区統括部長)	お客様の様子	・薄型テレビやDVDレコーダーといったデジタル大物家電の単価、販売量共に前年比が90%を割り込んできている。
	乗用車販売店(営業担当)	来客数の動き	・週別にイベントを実施しても来客数が前年の70%しか確保できない。
	高級レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・夕食の利用客が増加し、客単価も上がったものの、主婦層が80%を占める昼食の利用客が大幅に減少している。昼食の客単価も低下しており、主婦層にも景気の不安感が広まっている。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・1月は例年最も暇な月であるが、今年では来客数が前年から2けたのマイナスとなるなど、更に悪い状況にある。来客数の8割を占めるランチは前年から4%の減少にとどまっているが、高単価のディナーは前年から20%の減少となっている。平日の夜は店内が閑散としている。	
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・今年の1月は悪かった。特に夕食での減少が目立っている。年に数回開催する人気の特別ディナーも出足が悪く、当日になってようやく目標達成となった。知り合いの飲食店も来客数が減少している。値段が安いことで人気の居酒屋も、早い時間は混んでいるものの、時間が遅くなると客足が遠のいている。	
	一般レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・観光客及びビジネス客の利用が激減しており、来客数が前年から10%の減少となっている。特に3連休以降の売上は前年の80%まで落ち込んでいる。	
	スナック (経営者)	来客数の動き	・全般的に、新年会での利用や団体での利用が少なくなっている。	
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・宿泊客の動きをみると、前年と同様に休日の落ち込みは少ないものの、平日の減少が目立っている。予約状況も極端に悪い。	
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・前年の秋口から、宿泊客が急速に減少している。一部の海外客は顕著な伸びを示しているが、先行きへの不安感に伴う消費マインドの低迷のせいか、国内客については、観光客、ビジネス客にかかわらず、減少が目立っている。また、全体的に予約が直前になっている傾向がみられる。	
	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ビジネス需要が前年の90%にとどまっている。海外旅行については前年の49%にとどまっており、2月の先行受注状況も前年の82%とかなりの低水準にある。	
	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・燃油サーチャージの引下げ、円高などの影響により、海外旅行がやや増加傾向にあるが、全体的には非常に悪い状態である。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・新年会などでのタクシー利用客が例年より極端に少ない。天候も暖かい日が多く、雪の日も少ないため、タクシーの売上は前年から10%以上も減っている。	
	観光名所 (役員)	来客数の動き	・今月に入り、国内からのツアー客のみならず、海外からのツアー客も減少している。これまで海外客が冬の観光を支えてきたが、チャーター便の減便の影響で落ち込みが目立っている。全体の来客数は前月を上回る減少幅となっている。	
	美容室 (経営者)	来客数の動き	・来客数は、前年から約10%の減少となっている。	
	設計事務所 (所長)	お客様の様子	・勤務先の業績不安から、新築予定を延期したり、資金計画の見直しを余儀なくされている客がみられる。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・量販店やスーパー等において、年末の注文を控えた反動から受注量が増加した企業がみられた。その一方で、観光客や帰省者の減少により、ホテルや商業施設における土産品の販売量が大きく減少した。
	やや悪くなっている	金属製品製造業 (経営者)	競争相手の様子	・発注先の企業において、これまで外注していたような業務を自社内で行う傾向が強くなってきている。
		輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・在庫過剰による値崩れを防止するため、製紙業界が印刷紙、板紙などの減産を行っており、輸送量が大きく減少している。
		司法書士	取引先の様子	・個人住宅が引き続き低迷しているため、これに関連する土地取引も伸び悩んでいる。
		その他サービス業 [建設機械リース] (支店長)	受注量や販売量の動き	・新規設備投資の話がなく、リースなどの引き合いが少なくなっている。
	悪くなっている	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量が急激に減ってきている。
		家具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・不要不急の耐久消費財の買い控えが進んでいるため、家具の販売量が減少している。特に東京以北の状況が悪い。

	輸送業（支店長）	取引先の様子	・業界全体で鉄鋼の生産量が1千万トン以上減少している。製紙についても生産量を半減させる工場が一部出てきている。建築については、道内最大となるビルの建設計画が延期されることになったほか、中小物件も延期や中止が相次いでいる。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・周辺企業の動向として、一般的に企業活動が低調であり、新規投資等に対して軒並み慎重な姿勢になっている。抑制傾向が顕著になっている。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・原材料価格の上昇は一服しているが、販売価格の低下が目立ってきた。雇用不安が広がっていることから、消費が低迷しており、比較的好調だった水産加工品の輸出も、円高や原料となる水産資源の不足で減少している。	
	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・得意先からの広告出稿依頼が、前年から3割ほど減少している。	
	司法書士	取引先の様子	・土地売買、建物新築等の登記が減少している。企業の廃業も多い。	
	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	競争相手の様子	・仕事を突然打ち切られる会社が急増している。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・扱っている消耗資材の受注量が更に減少している。また、大型物件の案件も減少している。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上は前年から1割の減少となっているが、前年にスポットでの出稿があったことが要因であり、ほかの常連クライアントについては、ほとんど前年並みで推移している。人材派遣の派遣先業種は、農業関連の企業がほとんどであることから、地域全体としては前年並みの実績となっている。
やや悪くなっている		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・本州方面への派遣求人広告は姿を消している。地元の求人数も伸びが少しずつ鈍化してきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・12月の新規求職者数は前年から3割の増加となっている。特に29歳以下の若年層では前年から5割の増加となっており、厳しさが現れている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の新規求人数は5.4%減少し、10か月連続で前年を下回った。月間有効求人数も26か月連続で下回っており、有効求人倍率は0.41倍と前年を0.08ポイント下回った。
悪くなっている		職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の新規求人数は前年を3.4%下回っている。一方、新規求職者数は前年を17.1%上回っている。月間有効求人倍率は0.37倍であり、前年0.41倍を0.04ポイント下回っている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・家電メーカーの業績予想の下方修正にともない、販売関連の派遣ニーズ、求人が減少傾向にある。それ以外の人材派遣についても慎重な姿勢が強まっており、派遣契約の更新を控える企業が増えている。人材紹介についても採用基準が相変わらず高く、なかなか採用に結び付かない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・直接雇用、間接雇用を問わず、ほとんどの業種で求人数が減少している。前年からは約3割の減少となっている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・12月の有効求人倍率は0.35倍となり、12月としては7年ぶりの0.3倍台となっている。この背景として、求職者の急増が挙げられる。	